

「産学協働の広場」における 1 つの取り組み

久松 正

産学協働研究会 (ScienBiziP Japan 株式会社)

通常、春秋の学術講演会における発表は、発表者個人の見解の表明ではなく、所属機関を代表した報告であると考えられている。よって、発表内容に対する評価など、予期せぬ質問があった場合に発表者は「私個人の見解ですが」とか「個人的には」など前置きをして答えることが多い。本誌の記事でも脚注に所属名が記されるので、おおむね同様である。そう考えると、現役の技術者・研究者が一會員の立場で自らの研究成果や見解を発表したり、問題提起してそれを一同の議論に供するといったことは結構難しいことがわかる。個人事業主でもない限り、いつも所属名を問われかねないということである。講演会は単に学術的な成果の一方的な開示だけでなく、参加者との意見交換やディスカッションにこそ醍醐味があるので、このような在り方に対して「もう少し風通しよく議論できないものか」、「せっかく同じ分野で働くさまざまな人が集まる機会なのだから、もっと自由に交流できないものか」と感じておられる方も多いのではなからうか。ちょっと大げさに言うと、そのようなことを（十分とは言えないまでも）可能にした試みが、2017年秋季学術講演会（9月5～8日：福岡国際会議場ほか）における「産学協働の広場」で実現したので、その概要を以下にご紹介したい。

本誌をお読みの多くの方はご存じであろうが、ひと頃世界のトップシェアを争っていた日本の太陽電池メーカーは近年その座を中国勢に奪われ、存在感を失いつつある。過去に半導体集積回路やレーザーダイオードなどいくつかの半導体製品や家電製品で見られた現

象が、またしても繰り返されようとしているのである。

筆者は日本の代表的な太陽電池メーカーに勤務していた研究者であるが、「日本の太陽電池産業がレベルダウンを余儀なくされた原因を検証し、改善すべきところは改善し、今後の教訓とすべき」と考え、自ら希望して退職を選ばざるをえなかった社内の人を中心に、機会あるごとにさまざまな人とディスカッションを重ねてきた。そこで筆者が感じたことは、そこには直近の売り上げ至上主義や、グローバル視点の欠如などの社内的諸問題以前に、「引き金となったいくつかの問題（業界全体が抱えていた外的要因）があったこと」に言及せざるをえない、そして「そのような問題の具体的な提起と対処こそ、第一に求められるのではなからうか」ということであった。

そこで筆者は同じ太陽電池の分野で働くほかの企業や業界団体の方々、大学や研究所の研究者の方々、(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)など政府機関の方々のご意見も伺って、ディスカッションしたいと考え、例えばシンポジウムのような形でオープンに議論できる機会を設けることができないものかと、学会の意見交換会で企画提案したこともあった。しかし、これはおおかたの賛同を得るに至らなかった。その理由は、競合する企業が一堂に会して話し合うことに違和感があること、太陽電池に対する思い入れやこだわりの程度が異なれば議論にならないこと、他分野の人とは一般論でしか議論にならないこと、などが挙げられるが、そもそもベースの情報量に

今回の「産学協働の広場」は下記のとおり行います。本テーマはもう一度ここで取り上げる予定です。

日程：2018年3月18日(日)
午後
場所：ベルサール高田馬場
JSAP EXPO
Spring 2018
入口付近

かなりの差があり、現状の認識や危機感も異なる、ということもあった。それならば、まずは筆者の考えに理解を示し、賛同いただける方を募る目的から「産学協働の広場で取り上げよう！」という案が産学協働研究会で急遽浮上、冒頭に記した試みに至った次第である。

「産学協働の広場」の当日(9月6日午後)は、机1つが置けるほどのスペースではあったが、約3時間半の間に来場くださった16名の方とディスカッションすることができ、またそれを別の会場で話したところ、十数名の専門家の方々にも興味をもっていただくことができた。さらに、それ以降も電子メールを使ったさまざまなやり取りが続いた。

これはオープンな企画ではあったが、議論は1対1で行われたので、その内容が一般に公表されるものではないし、来場くださった方が必ずしも当分野の専門の方ばかりではない。その意味では当初のもくろみが十全に達せられたとは言い難いところではあるが、より

広い範囲の方々とディスカッションすることができた結果、筆者の考えていたことにおおむねご理解とご賛同をいただき、例えば「太陽電池メーカーが元気の出ない理由は、単に補助金の額が減ったからではないのか?」とか「太陽電池メーカーの人たちは現実を直視するのが怖いのではないか?」といった厳しいご指摘や、「もっと経営学的な視

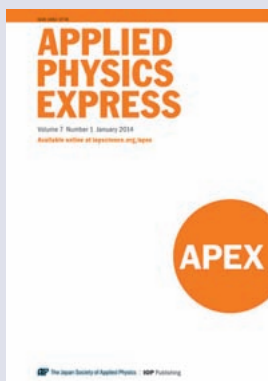
点からの考察も必要ではないか」といったご提案も頂戴することができた。

また一方では、「そんなことはなかったことにしたい」という本音を感じさせられたこともあった。確かに、ちょっと目先の観点が変わっただけで、人が替わっただけで、それまでの懸案事項がなくなったような空気になってしまうことがある。そんな検証や反省をすること

ができないことこそ、同じことの繰り返しの原因かもしれない。我々も歴史に学ばねばならない。

具体的な議論の内容は、改めて別の機会に公表し、さらに議論を重ねたいと考えているが、「産学協働の広場」における取り組みが1つの突破口になった例として、ご紹介する次第である。

The Japan Society of Applied Physics and **IOP** Publishing are proud to present



Applied Physics Express

An international letters journal for the advancement and dissemination of knowledge in all fields of applied physics.



iopscience.org/apex



Japanese Journal of Applied Physics

A high-quality, high-visibility journal, with an extensive archive of more than **63,000 articles** reflecting its long history of publishing excellence.



iopscience.org/jjap



Published in partnership with
The Japan Society of Applied Physics

IOP Publishing | science first